100円からのCD批評 Jazz VOL.10

マークポイント	＜評価＞
●	安くても買って損した
●●	どうでも良い
●●●	まあ、いいんじゃな〜い
●●●●	かなり満足できた
●●●●●	非常に満足、してやったり！

＜46＞

・Joe Henderson [BIG BAND] 280円 {VERVE/1996年発売 アメリカ盤} 柏にて

ジャズ界の古株で、60年代にはブルーノートでそれなりに活躍していたジョー・ヘンダーソンであるが、小生、いまいちこの人の魅力とやらが判らないのでした。かなり色々なアルバムでそれなりに聴いた事もあるのだが、どちらかというと何か主張のないサックスプレーヤーに感じられていた。　今回、ビッグバンド編成でＣ・コリアやＦ・ハバード、Ａ・フォスターなどの強力な布陣で臨んでいるのだが、ご本人自身が一番かすんじゃってるのはイヤハヤまいっちゃうね〜？！結局、やはり自己主張が足りないというか、バンドのパワーに負けてしまっている。昔のヒット曲（[Recormame]や[A Shade Of Jade]など）がビッグバンドアレンジで蘇るのが聴き物というか、それしかないんじゃない？といった趣きである。　Ｂ・ゴルソンとかこの人は、ソングライターとしての才能の方が、ジャズ・プレーよりも数段上なのではないだろうか。そう思わせてくれるアルバムだ。 満足度／●●●　　（購入日：2003.4.20）

＜47＞

・Cruseders [VOCAL ALUBUM／ヴォーカル・アルバム] 100円 {ＭＣＡ/1987年発売　日本盤} 柏にて

70年代後半から80年代初めにかけてのジャズ＆フュージョンブームは、今では信じられない程すごい勢いであった。クロスオーバーだのフュージョンとかは、実際のところ悪しき流行ではあったが、たまにクリエイティブなものもあり、玉石混交の音楽探しは結構楽しかった。　丁度初代のウォークマンを購入し、毎日の通勤には欠かせなかったのがEW&Fとこのクルセダーズであった。中でも「ストリート・ライフ」は、一体どのくらい聞き返したか判らないくらい聴き倒したものだった。その頃に20年位たってバッタもんコーナーで発見し、昔の馴染みから再度聞き込むことになった。やはり、当時のクルセダーズとりわけＪ・サンプルのキーボードと作曲のセンスは「飛び抜けて良い！」のでした。　彼らの歌物でヒットしたナンバー中心に選曲されているのでＬＰ時代に聞きあきたのだが、ＣＤで10数年（20年？）振りに再会。値段と愛着から購入〜我が

青春時代の懐かしくも消したい思い出と共に、 今でも胸たぎらせてくれる我がオールディーズの１枚である。 満足度／●●●　（購入日：2003.5.5）

＜48＞

・Max Roach [Left Every Voice And Song] 200円 {ATLANTIC/1990年再発売　輸入盤}　柏にて

1971年にリリースされたマックス・ローチのLPからＣＤ再発もので、やはり時代を感じてしまう１枚である。というのも、30年前のジャズ界はロック＆ソウルの大流行によって瀕死の状態で、あの本家MJQでもがロックビートやフュージョンの先駆け的なサウンドを試行錯誤でやっていた時代である。かの硬派M・ローチもさすがにこうした時流には抗しきれなかったのか？パーカッション（あのR・マクドナルド）に黒人コーラスを従えて、お得意の政治メッセージというか、黒人パワー礼賛のようなアルバムコンセプトは愛とスピリチュアルメッセージの好きなM・ローチには、時代の必然だったかもしれないが、大失敗作！！出来損ないのゴスペル臭さが鼻に付く。メンバーは、小生好みのG.ケイブルスやＣ・ブリッジウォーターといった70年中期までのゴールデンメンバーなのだが、あまりすごみのある演奏でもなく、コーラスの影に隠れがち。 ジャズの時代背景が感じられてしまい、今さら真面目に聞くには辛い。　満足度／●●　（購入日：2003．6.25）

＜49＞

・ダルファー 「BIG BOY／ビッグボーイ」 70円 {EMI/1994年発売 国内盤}　柏にて

　娘のキャンディの方が世界的に有名になって、親の七光ならぬ娘の七光で注目を集めたオランダのサックス奏者のデビューＣＤである。一時ヒットチャートに登るスマッシュ・ヒットを出したが、その後日本では泣かず飛ばずで、今や中古ＣＤショップでは良く見かける御仁。打ち込みのビートに乗せてワンパターンのブロウであって、今までは食指が動かなかったが、値段が安かったからまあ良いだろうと購入した。　数曲聴けるサウンドがあるが、あとは行け行け！！の打ち込みビートに乗ってワンパターンのブロウばかりで、歌心があるでなしメロディラインは判りやすいが、踊る為にだけに組み立てられた人工的な手法なので、R&Bみたいなグルーブや揺れが少ない。まあ、今風といえば良いが、若い連中がクラブで踊るノリはあっても、オヤジ世代の重い腰は動かないのでした。聴ける場所は何と娘のキャンディーがサックス救援している２曲くらいという代物。　満足度／●●　（購入日：2003.6.25）

＜50＞

・Francesco D'Auria & Mauurizio Aliffi
[CERCANDO TIGRE]
300円
{SPLASH/2002年発売
輸入盤未開封}
柏にて

ディスク・ユニオンのアウトレットコーナーで300円未開封であったので、ヨーロッパジャズらしく変わった編成のバンド（クラリネット、オーボエとチューバが管楽器の中心に入っている）で、タイトルが『虎に近づいて』だと言う妙な感性で、興味本位で買った。何か聞くところによると、近頃日本では欧州系のジャズがそこそこ脚光を浴びているらしいが、その流れからどんな位置に入るのかわからないイタリアのコンボである。　最近のアメリカや日本のジャズとやはり趣きが異なり、こじんまりとしているが変な迎合性が感じられない。すっきりとしていてゴテゴテの飾り気が無く、嫌味ではない前衛性がどこか残りながら、スマートに唄うクラリネット、ギターのアンサンブルが意外と心地よく、アメリカ産ジャズに馴染みすぎた我が耳に新鮮に聴こえる、嬉しい限りだ。どこかまだジャズに手の温もりを感じさせる出来映えがあるのだ、欧州ものには・・・。　　満足度／●●●　　（購入日：2003.7.12）